製鐵所の大罷業は何故起つたか

折重なる内部の宿弊

驚く可し三十六時間ブツ通しの勞働を一ケ月に八九回反覆＝彼等は斯くしなければ食ふ事ができぬ＝名づけて殘業と云ふ

八幡製鐵所職工の罷工と意業は既報三日間以内の缺勤者には二割三割所は此の過激極まる勞働に、殘業に、日本一の製鐵所の表面は、表面の主謀者、煽動者となした日本勞働者の一部は、一日平均二時間内外の給料となり、月曜ましてある。幾くべきではない友愛會の統部五十幾名が檢束され、盡に積つて相當の收入さは思はれるか。此の過勞に依つて大抵の職工はしても、罷業は形を代へて繼續し、加給と云ひ割増と云ひ、之等は精勤を餌にしてある。所内の中樞機關たる中央勞働者の慾望を挑發する事を目的とした制度であつて

實際に積つて見る時は頗る精勤を爲し得ないとすれば

加給と割増とは全く畫に畫いた餅と同樣である。故に製鐵の上で七十四圓八十四圓となる職工も、事實の上では四十五圓乃至六十圓といふ位の收入狀態である。彼れ等は表面の收入に基いて年に二十圓内外の所得稅を賦課される。之等の職員は、表面は日本勞友會の一部に相當の勢力を成し、友愛會員は病氣の爲、後五時四十分退出するに至りたるも、方面答時刻たる午後六時に先だつて上京中の白仁長官よりの回答なりとて午後五時各工場に振鈴、

最後

の感を強くせん事に努力するの態に、友愛會の二勞働團體は最早長蛇なりとして午後五時四十分退出するに至りたるも、方面答時刻たる午後六時に先だつて上京中の白仁長官よりの回答なりとて午後五時各工場に振鈴、

回答

を受けたる職工等は何處人をも喰つた行ひかたらうと冷笑した而して其上に慇懃重厚すぎて、可

製鐵所側の要求拒絕と

勞友會、友愛會の敗戰報告演說會

依然怠業幾種か

會の要求に對する回答としては七日午後六時に與へられたる所、怠業なる此前夜に於て友愛會八幡支部と日本勞友會との間に相當の了解成立し、友愛會員は病氣の爲、後五時四十分退出するに至りたるも、方面答時刻たる午後六時に先だつて上京中の白仁長官よりの回答なりとて午後五時各工場に振鈴、

最後

の感を強くせん事に努力するの態に、友愛會の二勞働團體は最早長蛇なりとして午後五時四十分退出するに至りたるも、方面答時刻たる午後六時に先だつて上京中の白仁長官よりの回答なりとて午後五時各工場に振鈴、

回答

を受けたる職工等は何處人をも喰つた行ひかたらうと冷笑した而して其上に慇懃重厚すぎて、可

勞友

會の要求に對する回答としては七日午後六時に與へられたる所、怠業なる此前夜に於て友愛會八幡支部と日本勞友會との間に相當の了解成立し、友愛會員は病氣の爲、後五時四十分退出するに至りたるも、方面答時刻たる午後六時に先だつて上京中の白仁長官よりの回答なりとて午後五時各工場に振鈴、

最後

の感を強くせん事に努力するの態に、友愛會の二勞働團體は最早長蛇なりとして午後五時四十分退出するに至りたるも、方面答時刻たる午後六時に先だつて上京中の白仁長官よりの回答なりとて午後五時各工場に振鈴、

回答

を受けたる職工等は何處人をも喰つた行ひかたらうと冷笑した而して其上に慇懃重厚すぎて、可

否まれぬ

根本の理由

ある。此の根本の理由が除かれねば如何に官憲の壓力を以てしても到底鎭壓なる解決は望まれさうにない。然らば其の根本理由とは何

意業を見て見ぬ振りをして居るこ等役人等の眼り知らぬ處である故八日一日間公休を與へるこ言ふおカ一致し救濟事業の發展を期するか此點は日下調査中で協議のチームパイプ一本を二日間で捧へやうが仕事は此の風習は前年の潰職事件以來

致せられて來たもので上役人に

やつ放し

技術も能率も糞もない

自仁長官は就任當時一度

致せる

の念の消滅が主因の一つである云ふ彼れ等職工は其の

長官の顏

を見た者が

吏と奸商に依つて曝富を占められるに過ぎない

製鐵所側の要求拒絕と

勞友會、友愛會の敗戰報告演說會

依然怠業幾種か

大井大將曰く

我軍の立場容易ならず

工場擴張は無意味である◇職工の待遇を改善すれば能率は上る

大罷業は役人怠業の所産

梅の府宰

其の内容

覺悟の自殺

十九の美少女

慘憺たる樣死

紙與の賣出し

休業發表

遺書を

奉公先

前非を

國精會設立

前非を悔ひて

正

里

車

白

勤